

Study on the development of a safe, environmentally friendly shrimp culture system in Vietnam

チャン, ティ, トウ, ズエン

<https://hdl.handle.net/2324/4110560>

出版情報：九州大学, 2020, 博士（農学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名	チャン ティ トゥ ズエン Tran Thi Thu Duyen			
論 文 名	Solutions for the development of a safe, environmentally friendly shrimp culture system in Vietnam (ベトナムにおける安全かつ環境配慮型エビ養殖システムの開発に対する解決策)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	矢部 光保
	副 査	九州大学	教授	福田 晋
	副 査	九州大学	教授	南石 晃明
	副 査	九州大学	准教授	高橋 義文

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究の目的は、ベトナムにおける安全で環境に配慮したエビ養殖システムの展開のための解決策を提示することにある。そのため、第一の研究目的は、マングローブ・エビ養殖の生産性に影響を与える要因を解明することである。まず、高い品質の小エビを導入する漁家は、そうでない漁家に比較して生産性が高いが、養殖池で他のカニや魚を生産するならば、生産競合のため、エビの生産量は減少する傾向が見られた。また、エビ養殖の研修に参加する漁家は、そうでない漁家に比較して、エビ生産量が高い傾向も確認された。

第二の研究目的は、有機認証に注目して、マングローブ・エビ養殖モデルにおける収益の決定要因を明らかにすることである。重回帰分析の結果から、エビ価格、水面面積、研修絵の参加は、正の影響を与えることが明らかになった。特に、有機認証がある場合は、そうでない場合に比較して収益が高く、さらに有機認証の支援を受ける企業からの利益もある。

第三の研究目的は、有機認証を取得する漁家の意思決定に影響を与える要因を明らかにすることである。多項ロジットモデルの推定結果から、マングローブ面積率が高く、また、教育水準が高い漁家は、有機認証プロジェクトに参加する傾向が高いことが確認された。他方、有機認証のプレミア率は、必ずしもこのプロジェクトへの参加に影響を及ぼすとは言えないことが明らかになった。

第四の研究目的は、有機認証の養殖方式に転換するとき、その契約内容に影響を与える要因を明らかにすることである。契約に盛り込まれる内容は、有機認証エビ養殖へのプレミア、代金支払いを遅くすることへのプレミア、エビを販売する場所、そして小エビの提供である。そこで、混合ロジットモデルによる分析結果から、漁家は、より高いプレミアや高い品質の小エビを好み、支払いが遅いことは好まいこと、輸送距離が少ない自宅でのエビ販売を好むことも明らかになった。

このような分析結果より、本研究は、環境に配慮し、有機認証を取り込んだマングローブ・エビ養殖システムの展開方向に有用な要因を明らかにするものであり、今後の途上国における持続可能なエビ養殖システム構築に向けた、重要な貢献が期待できる学術的価値の高い研究と言える。よって、本研究は博士（農学）の学位に値すると認める。